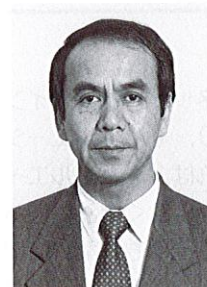


## 情報化社会のキー技術

## Software Is the Key to Open the Information-Oriented Era



有信 睦弘  
ARINOBU Mutsuhiro, D.Eng.

“ネットワーク化”が時代の方向を示す言葉として使われはじめて久しく経ちましたが、インターネットの急速な普及によってその内容は大きく変わってきています。従来の通信は、階層的で信頼性の高いネットワークによって個人と個人の通信を確実に保証するものでしたが、インターネットは不特定多数対不特定多数の新しい通信の場を提供しました。即時的で確実な通信は保証されませんが、個人は大量の情報の中から必要なものを選択できますし、自由に情報を発信することができます。

インターネットの与えたインパクトの一つは、不特定多数間の情報のやり取りの場を提供することによってネットワークの開放性を明示したことです。開放性という視点はネットワークを介した異なったシステムの連動や、異なったグループの連携という新しいコンセプトを生み出しつつあります。一方、ネットワークの普及は接続場所の制約を取り払い、無線通信のインフラ・機器と計算機の発展がさらに空間的な自由度を広げています。ネットワーク化が進んだ社会では、そのオープン性とモバイル化を基盤にさまざまな階層で新しいコンセプトが生み出されてくるでしょう。

ネットワークの普及と端末機器の発達を背景とした“情報化社会”ではあらゆるものの“情報化”が図られます。ものの情報化とネットワークを通じた流通は従来の事業の領域や構造を変えるだけでなく、旧来のさまざまな境界を無意味にし、新しい事業の機会を生み出す力をもっています。多様で大量の情報を扱う技術とともに、これらを効率的に扱う技術が重要になります。

到来しつつあるネットワーク社会へ向けて、オープン化とモバイル化の中で多様で大量の情報が流通するという流れを、社会活動という観点で具体化していく必要があります。ネットワーク社会は、人間が空間や時間をはじめとするさまざまな制約から解放される社会でもあります。このような社会を実現するためには、情報を扱い、情報化を進めるソフトウェア技術がキーになります。今回の特集によってその一端をご理解いただければ幸いです。